

様式第3号

一関市立黄海小学校運営支援協議会 会議録

- 1 会議名 令和7年度第2回学校運営支援協議会
- 2 開催日時 令和7年12月10日（水）10時00分から11時40分まで
- 3 開催場所 一関市立黄海小学校 会議室
- 4 出席者 葛城 行將（会長）、及川 清喜（副会長）、小野寺美紀、小野寺 公雄、千葉 松男、
熊谷 郁雄、熊谷 賢一、千葉 正志、黄海千鶴子、伊藤 英、遠藤満智子
菊池 知之（校長）、甘竹 浩枝（副校長）
◆欠席者千葉 大
- 5 議題
 - ・これまでの学校経営について
 - ・児童の様子について
 - ・地域の様子について（情報交換）
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0人
- 8 議事内容
 - ・学校より、まなびフェストのアンケート結果や資料について説明。
 - ・読書について、児童と保護者の（達成できていると感じる割合の）差が大きい。時間帯の違いもあると思う。親が帰宅した頃には読み終わっている。親の目につかない時に読んでいる。
 - ・黄海こども園でも、小さい頃からの読書週間を大切にしている。絵本や読み聞かせ等、本にふれる機会を増やしている。
 - ・本に親しむことの価値は高い。家庭に本があるかどうか。（ゲーム代になってるかも）
→ 個人差はある。学校でもボランティアによる月2回程度の読み聞かせや、読書普及員による様々な取組もある。
 - ・こども園から続いて、小学校でも本に親しんでいるのは良いことだと感じる。
 - ・校報の発行（月2回ペース）が良い。地域でもわかるので、続けてほしい。
 - ・宿題のとりかかりが、タブレットの時は早い。関心がある。回数が増えてもよい。
 - ・複式学級、和気あいあいと学習していて、落ち着いていた。先生も、イメージしやすい言葉を選んでいた。

- ・タブレットも、英語も、子どもたちの上達が早い。親の方が、追いついていけるのか心配。
- ・不審者対応については、どのようにしているか。
 - 昇降口や玄関を施錠し、対応している。特に不審者情報はない。保護者も、子どもたちも互いに知っているという本校の特徴があり、あいさつをする、声をかけあうといったことも継続している。
 - 併せて、熊対策も継続中。（スプレーの購入、ホイッスル、熊鈴、送迎等）
- ・どの学級も落ち着いていて良い。学校が落ち着いているのが、一番大切。
- ・先生方は、授業の準備等の時間、少ないだろうなあと感じる。感心する。
- ・授業を見て、今の子どもたちは（様々な授業を受けていて）うらやましい。
- ・複式学級について、今後対応は可能か。
 - 現在、複式は2・3年生だが、異学年交流やたて割り活動は全学年で行っている。また、2つの学年合同での授業等により、多い人数での授業も実施している。
- ・黄海小でいじめがないのは、非常に良い。
- ・「複式だから成績が下がる」は、まやかし。小規模校は、先生が子どもに手をかけて教えられる。その方が必ず力がつく。
- ・小規模校の良さがある。複式では、よくあるのは、2年度を1つの単位で計画を立てる。
- ・複式、スペースを空けたり音を工夫したりという方法もある。
- ・黄海は、地域の結びつきが深い。大事。とても良いこと。一連の活動も、子どもにとってもよかった。
- ・こども園への協力もありがたい。小学校とこども園、一緒に遊んだり、ロードレースも、旗をつくって応援したり、交流が多くなった。
- ・スマホの使い方、本への親しみ等、こども園の頃からどう教えていくか、大切。
- ・黄海小学校と家庭との連携、今後も続けてほしい。
- ・学童の様子、黄海の子は入室するとすぐ勉強する。落ち着いて学習している。